

目的 生活環境学は、人間の生活と環境との関係について研究をする学問である。生活環境学の学問としての体系を著書『生活環境論』の章構成にその理論構成や枠組みを求めた。しかし現在の生活環境学は著者の専門的色彩が強く、統一した学体系を形成していないのである。生活環境学の範囲と程度、いわゆる生活環境学とはどういう学問かを追求することをこの研究は目的としている。

方法 既刊著書『生活環境論』『生活環境学概論』などを比較することによって、生活環境学の内容構成を検討した。

結果 著書『生活環境論』『生活環境学概論』は1975年以降10冊程度出版されている。その内容は発行時期により研究対象が異なる。また著者の専門分野により課題が異なる。しかしいずれにもみられる共通的課題こそが生活環境学の中心的課題ではないかと考え比較検討を行った。ところがその内容は環境問題の現状との対応について、事象ごとに取り上げているものが多く、当初は衛生学の立場のものが基本だと分かった。

生活環境学は、まず人間の生活環境としての条件、生活環境の歴史的変化、現代の生活環境問題、生活環境問題の解決方法など枠組みを明確にした後、研究者の問題意識の違いが認められるのである。既報において* 環境学の専門化しすぎた諸学問の総合化を検討したが、生活環境学においてその学体系を可能ならしめたいと考えている。

* 日本家政学会第48回大会において報告